

静岡県立湖西高等学校

令和4年度 第1回学校運営協議会 概要

1 開催日時 令和4年6月23日(木)13:15~15:15

2 開催場所 静岡県立湖西高等学校 会議室

3 出席者 全9名(順不動)

- (1) 鈴木 聖慈氏 (湖西市教育委員会 学校教育課長)
- (2) 木藤 政美氏 (豊橋創造大学 学生課 課長)
- (3) 彦坂 昇氏 (フライムアースEVエナジー株式会社 総務人事本部 本部長)
- (4) 田坂 浩二氏 (湖西高等学校PTA 会長)
- (5) 小林 孝誌 (校長)
- (6) 渡邊 二三彦 (副校長)
- (7) 磯部 幸宏 (教頭)
- (8) 袴田 早苗 (事務長)

※谷田部 和孝氏 (東海旅客鉄道株式会社鷺津駅 駅長)、都築 英嗣氏 (表鷺津自治会 会長) も委員として任命されているが、当日所用のため欠席

4 次 第

- (1) 開会のことば
- (2) 校長あいさつ 詳細は5議事録(1)参照
- (3) 自己紹介 詳細は3出席者参照
- (4) 会長・副会長の選出 会長は彦坂昇氏が継続し、副会長を田坂氏とする。
- (5) 授業参観 詳細は5時間目の授業を参観
- (6) 学校経営計画について 詳細は5議事録(2)参照
- (7) 学校運営等に関する意見交換 . . . 詳細は議事録(3)(4)参照
- (8) 諸連絡 次回の協議会は9月中に実施予定。
- (9) 閉会のことば

3 議事録

(1) 校長あいさつ

- ・本校の学校運営協議会について、静岡県からは、協議会がよく動いていると評価をもらっている。委員からの意見を受け、委員の方の協力もいただいて学校が動く、という実績を作っている。
- ・湖西「コミュニティ」カレンダーでは、市内の小中高、特別支援学校の内容を載せている。様々な行事や地域全体を紹介し、最下部には、湖西検定を載せている。高校でこのような取組みができるのは、本校しかない。湖西市、湖西市教育委員会の協力も多大で、感謝しているが、これも協議会あつてのことである。
- ・本校1年生全員が3日間、市内企業でインターンシップを実施する。生徒が自身を見つめる機会としたい。彦坂委員の声かけによって実現した。今後も、ご意見やアイデア等をいただきたい。
- ・グローバルハイスクールの指定を受け、これを中心に学校を運営している。地域密着で実施する。部活動のみならず、授業も地域と連携し、昨日は、1年生が地元企業を見学するなど、地元の活気の恩恵をうけている。募集に結びつくよう、グローバルの特色を出し、保護者等にも伝え、地元から選ばれる学校になる、御助言をいただきたい。
- ・新型コロナ対策で学校行事の実施は苦勞しているが、文化祭では、一般の来場者をできるだけ受け入れた。地元企業、浜名特支学校とも連携できた。3年生もいよいよ修学旅行に行くことができる。本日はよろしく願いたい。

(2) 学校経営計画説明（校長より）

① 1 目指す学校像について

- ・グローバルハイスクールにより地域貢献の推進と同時に生徒の心のケアを行いたい。困り感のある生徒の増加と支えが大事であると考えている。
- ・地域・社会の中での学びを、本校の中心とする。

② 2 本年度の取組について

- ・生徒指導では、最終的に大事になるのは、「あいさつ」である。前もって生徒に投げかけ、問題行動を事前に防ぐ生徒指導をする。「NICE挨拶DAY」、生徒が自身を見つめる機会としてノー制服デーの実施も考えている。
- ・校内研修は、市内小中学校、浜名特支学校、新居高校にも参加を依頼し、お互いに参加したい。
- ・地域との連携による様々な活動を実施し、学びの深化を図っている。学年ごとに湖西検定を作成し、部活動も自治会やNPOと連携している。教科でも連携を始めている。
- ・教員減少により校務分掌を見直し、広報室も設置した。広報室では、積極的にアイデアを出している。例えば、湖西高校物語を作成した。校内の心温まる実話を小説仕立てにして、中学校に配布しようと考えている。本校のイメージアップ、生徒や教職員の自己肯定感の向上を期待する。学校案内とホームページを、県のアドバイスを受け、改善した。
- ・部活動では、剣道部、ポート部、茶道部が今後、廃部になる予定。今後も精選が必要。部活動は中学生の関心事でもあり、苦しいところである。一方、部活動による社会貢献活動に積極的で、野球部、三味線部等が貢献活動を行っている。
- ・教育相談体制を充実させたい。生徒の居場所を作りたい（保健室、相談室等）。浜名特支学校との交流を進めたい。本校の教員全員に、特別支援について勉強してもらいたい。
- ・危機管理で地域に貢献したい。被災地訪問した生徒を市内の小中学校に派遣し、講話をさせたい。

- ・働き方改革について、一人一案を実施。職員の意見を聞いている。月に1回、定時退勤日、週1回、早時退勤日を実施。
- ・昨年度、スクールミッションを設定した。今後は、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、グラジュエーションポリシーを作る。教職員に一人一案を求めている。委員の皆様からも御意見いただきたい。

(副校長より)

グローバルハイスクールの目標値を設定している。授業内容に興味があって本校を選択した生徒の割合が16.3%と上昇した。2年目としては、内容を精選し、恒常的に続けられる事業にしていきたい。昨年度の成果については、県の評価委員会からも高い評価をいただいている。

(2) 委員からの感想・意見

(木藤委員)

- ・湖西高校は工夫をしており、地域、生徒、保護者という三方良しの精神がある。今の中学生は楽しい学校を望んでいる。学びや課外活動、仲間、地域の人々とのふれあいが楽しいと実感できることが、持続可能な地域社会につながると考える。地域を支える人材は必要である。
- ・「前向きな生徒指導」は問題行動の減少につながるだろう。
- ・私服デーは奇抜な取り組みではあるが、楽しみな取り組みだと思う。生徒の感性をみる機会としては有意義である。
- ・部活動の統廃合は難しい。似た分野の部活動を一緒にするなどの案も考えられる。精選が過ぎると生徒からの魅力が減ることになる。生徒にとってもマイナスにならないように願う。
- ・他校種との交流は良い取り組みである。
- ・生徒の居場所の確保は良い取り組みである。いろいろな生徒の居場所を作っていただきたい。
- ・働き方改革については、熱心な先生が多い中、在勤時間の縮小につながっていると感心している。

(鈴木委員)

- ・特別支援教育の力をつけることについて。義務教育の通常学級に、支援の必要な生徒が多くなってきている。義務教育で通常学級の担任をしても、特別支援の力が必要であり、子どもたち一人ひとりを大事にしていくことは大切であるので、良い取り組みである。

(田坂委員)

- ・目指す学校像について。社会を支えていく人材を作るという1年生の企業見学は、良い取り組みである。湖西市内の産業展を実施して、仕事を知る機会を作り、生徒、市民の参加を可能として行ってほしい。

(校長)

3年生対象に本校で地元企業40社が来校する予定がある。2年生対象に中小企業をたくさん集め、説明会を予定し、新居高校にも参加を働きかけている。保護者も参加できる予定。生徒、保護者の選択肢が増えることを期待している。

(彦坂委員)

高校と市商工会で話し合ったアイデアが具体化されている。企業の若手社員も熱意があり、高校と連携して、取組が広がっていけば、有効と考える。職住近接になっていけば、一番良い。これらの活動が、湖西高校の特徴となって、湖西高校生の進路に有効となり、中学生にとって面白い

高校だと感じてもらえれば、定員割れ解消にも有効だろう。この地域から情報発信ができればよいと考えるが、すぐには根付かないだろう。教職員の中にも、地道な活動が10年後に受け継げるような風土、風潮を作っていただきたい。

(彦坂委員)

これからも指針、方向性をもって学校運営を行っていくと聞いている。引き続きお願いしたい。

(3) 教職員コンプライアンスについて

(副校長)

校内で不祥事根絶に係る研修会を行った。委員は、不祥事をどのように見るか、意見を聞きたい。

(彦坂委員)

民間企業にも様々な社員がいる。現在の社会情勢の影響を受けた問題が生じている。防ぐのは難しい。報道を見ていると、教員が忙しすぎて、ストレスから衝動的に行動してしまい、繰り返す感じではないか。定時退勤等によって、気持ちに余裕を持ち、ストレスを発散する場を作り、心に余裕を持った状態になる学校運営であるとよいのではないか。

(田坂委員)

後から見れば、このようにすれば良かった、ということになってしまう。普段から人から見られていないという意識がどこかにあったりするので、本人が不祥事を起こさないように意識することが必要である。報告・連絡・相談等のコミュニケーションを取り、相手の考えを確認できれば良い。

(鈴木委員)

小中学校でも不祥事根絶対策を行った。自分の事として考えることができないのではないか。誰にでも不祥事を起こす可能性があることを意識できていないのではないか。採用試験に合格した時の気持ちを忘れないでほしい。忙しいのは、理由にならない。義務教育では不祥事について、事の発端から細かく知る試みも行った。

(木藤委員)

愛知県では不祥事チェックリストがあり、管理職と教職員が面談する。初期面談、中期面談、期末面談で確認している。事例研究について、グループで話し合う研修を設けている。SNSは根が深い。生徒とLINEをしない、など、徹底するしかない。教職員同士の交流の機会が少なくなった。コミュニケーションが取れる機会の設定も有効ではないか。

その他（学校が、学校運営協議会委員から意見をききたいこと）

(木藤委員)

定員確保の方策について。中学校に説明するとき、保護者や在学する生徒の感想も大切である。高校生が中学生に話をする機会を設けている中学校もある。教員が言う以上に効果がある。

(彦坂委員)

貴重な意見に感謝する。今回の意見については、学校で検討するように願います。